

## しゃっちょうは行く!

10

### Broaden your horizons⑩ ~さあ、視野を広げて!~

こんにちは! メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。私はメディセレの社長であり、講師であり、妻であり、母でもあります。私には小学校4年生になる娘がおりますが、最近は娘の質問に手を焼いております。

娘「ママ、植木算と方陣算教えてよ!」

私「それはね……(私、小学校の時にそんなの習ったっけ?)」

最近の小学校の勉強は難しいですね。

そんな娘がある日、辞書を引いておりました。私は「偉いねえ~。何を調べてるの?」と語りかけました。すると娘がこう答えたのです。

「天下り」思わずママは「……………」(絶句)です。

そんな娘を育てながら、最近感じているのは、「子育てのしにくさ」です。今の日本は、情報が氾濫しているものの、貴重な経験をする場が減少しています。昔なら学校から帰った子供達は、公園に遊びに行ったものです。怪我もするし、喧嘩もしました。しかし、娘の通う小学校からは、「公園は危険なので、一人では行かせないでください」という指導がきます。遊び自体が変わり、みんなで集まっているけど、それぞれがゲームをしているだけで、怪我や喧嘩をする経験が減っています。それと同時に、怪我をしたときにどうするか、怪我をした友人を思いやれるか、喧嘩をしたときにどのように仲直りするか、これらを考え、解決する機会も失われています。今の子供達は塾世代で、課題を出されることに慣れてしています。私が指導している薬学生にも、自分に必要なものを他人から与えてもらうまで動かない学生が増えてきました。

今年度から6年制カリキュラムの薬学生達が保険薬局や病院の調剤所へ実習にきます。すでにみなさんの職場にも続々と実習生がきているかもしれません。この実務実習は学生達にとって貴重な経験となるでしょう。また学生自身が変わるチャンスでもあります。ぜひ、薬学生に考えさせる機会を与えてやって下さい。処方薬の妥当性を考察させたり、患者様への服薬指導やインタビューについて、どのような内容を何日後に問うのかプランを立てさせたり…。これだけでも学生にとって大切な「考える機会」となります。今の子達は受け身の姿勢でいることが多くなっています。しかし、とても素直です。考えるべき課題を出されると一生懸命取り組みます。そして少しずつ自分から行動を起こし始めます。皆様の力によって、一人でも多くの「活躍できる薬剤師」が世に出ることを切に願っております。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子